BioJapan 2025 YOKOHAMA

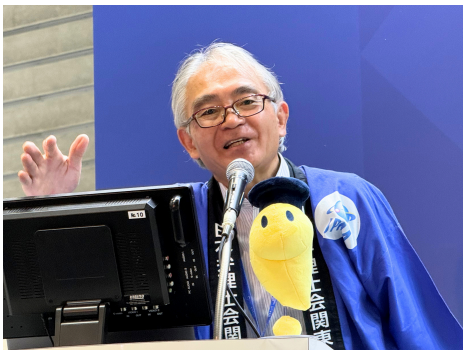
出展イベントレポート

日本弁理士会 バイオサイエンス委員会

日本弁理士会は、2025年10月8日から10日までパシフィコ横浜にて開催されたBioJapan 2025で、セミナー講演およびブース出展を行いました。本イベントはアジア最大級のバイオ産業見本市として製薬企業、大学、スタートアップ、研究機関などが一堂に会し、会場は連日盛況となりました。

セミナー講演：知財が変える、研究の未来とビジネスの行方

セミナーでは、研究成果を社会実装へと導くための知財戦略をテーマに3名の弁理士がそれぞれの専門領域から講演しました。



弁理士/石埜 正穂氏

弁理士/南野 研人氏

弁理士/ 村松 大輔氏

冒頭では、石埜正穂氏が「ディープテックのアカデミア特許出願」をテーマに、大学など研究機関における特許出願の現状と課題を提示。研究現場が抱える“特許化の遅れ”や“権利帰属の曖昧さ”といった問題に対し、早期から弁理士が関与することの重要性を訴えました。

続いて、南野研人氏が「バイオ・ライフサイエンス領域の創業期における知財のポイント」を紹介。
創業初期における知財体制の整備や、研究シーズをどう事業構想へ転換するかといった実務的アプローチが語られ、「知財は創業後に整えるものではなく、創業の起点そのもの」という言葉が印象的でした。

村松大輔氏による「研究者のための外国特許出願」では、欧米・アジアなど各国制度の違いを踏まえ、グローバル展開を視野に入れた特許出願の戦略設計が解説されました。すぐに使える実践的なアプローチ法も公開し、多くの聴講者がメモを取りながら頷いていました

パネルディスカッション：
どんな弁理士に相談すべき？知財による成功とは？

パネルディスカッションでは、弁理士の吉田氏がモデレーターとなり、弁理士の田中氏と講演に引き続き、石埜氏、南野氏、村松氏が参加し、5名の弁理士が「どんな弁理士に相談すべきか」「知財による成功とは何か」といった問いを軸に議論が展開。登壇者たちは「研究の視点と知財の視点を行き来できる人材こそが、研究開発を次のステージへ導く」「特許取得を目的化せず、社会実装まで見据えることが重要」と語り、研究者と弁理士の協働による新しいイノベーションの形を提示しました。

弁理士/吉田 尚美氏(モデレーター)

弁理士/田中 有希氏

様々な立場で弁理士の存在を語る

会場では立ち見が出るほどの盛況ぶりで、 「弁理士との対話を通じて、自分たちの研究の“出口”が見えた」「事業化に向けた道筋を整理できた」といった声も寄せられ、 弁理士の専門性が研究・開発現場で果たす役割の大きさを改めて示す場となりました。

最後のパネルディスカッションでは、モデレーターの吉田尚美氏の進行のもと、弁理士の田中有希氏、セミナーに引き続き、石埜氏、南野氏、村松氏が登壇。
「どんな弁理士に相談すべきか」「知財による成功とは何か」というテーマのもと、 研究現場と知財専門家の協働のあり方をリアルな事例を交えて議論しました。

登壇者からは、

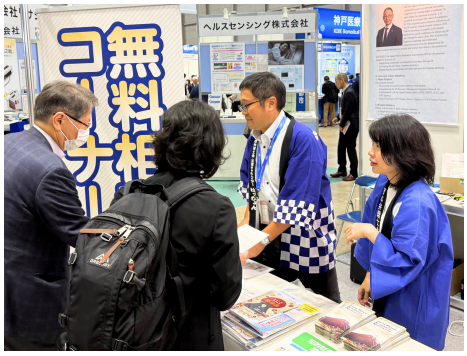
石埜氏：研究の視点と知財の視点を行き来できる人材が、研究開発を次の段階へ導く。
田中氏：特許を出しておけばよかったという後悔が最も多い。早期出願が後の成功を左右する。
南野氏：社会実装を見据えた知財活用こそが、研究成果の真価を引き出す。

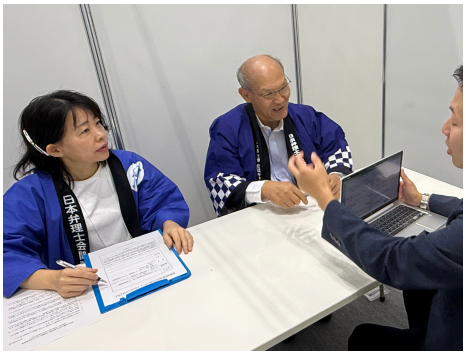
といった意見が相次ぎ、「特許＝守るもの」から「成長を仕掛けるための戦略資産」へという意識転換の必要性が強調されました。

会場からも積極的に質問が寄せられ、大学の知財部門担当者や企業内研究者が自らの課題を語る場面も見られるなど、 研究と知財の距離を縮めるための対話が生まれた時間となりました。

ブース出展：イベント期間中の弁理士への個別相談は3日間で80件を超える

日本弁理士会では、事前予約制の個別相談会とブースでの無料相談を行いました。事前予約制の個別相談では、30件を超える知財相談が寄せられ、相談内容によってより専門性の高い弁理士が担当するようにセッティングし、手厚いサポートを行いました。無料相談ではブースに立ち寄った方から50件以上の相談があり大変盛況でした。開催期間中は常に弁理士が研究者や企業担当者と個別に対応しました。





特許戦略の初期相談、大学発ベンチャー支援、共同研究契約、海外出願の進め方など、テーマは多岐にわたり、来場者からは「研究内容をどう特許に落とし込むか」「専門分野に強い弁理士をどう選ぶか」といった具体的な質問が相次ぎました。

イベント出展を通じて浮かび上がったのは、**知財リテラシーの差が研究成果の行方を左右する**という現実です。 弁理士が持つ知見と経験は、バイオ・ライフサイエンス領域における社会実装の推進に欠かせないものであり、 今回のBioJapan 2025は研究者と弁理士が共に未来を創る新たなスタート地点となりました。

BioJapan 2025とは？
1986年に初開催、バイオテクノロジーにフォーカスを当てた世界で最も歴史のあるイベントです。バイオテクノロジーの応用先は創薬、個別化医療、再生医療、診断・医療機器、研究用機器・試薬は勿論、近年は、ものづくり・エネルギー、機能性食品等まで幅広い分野 において期待されています。 展示会・セミナー・パートナリングプログラムを通じてバイオ産業のオープンイノベーションを加速させます。